

I 結果のポイント

II 全道の状況

I 結果のポイント

1 全道の状況

(1) 平均正答率の推移【P 3～5】

- 全国との差が、前回と比較して、小学校国語A、国語B、算数A、算数B、中学校国語Bの5教科で縮まり、中学校国語A、数学A、数学Bの3教科で広がった。
- 小学校は、すべての教科で全国との差が2.4ポイント（昨年度2.7ポイント）以内。
- 中学校は、すべての教科で全国との差が1.2ポイント（昨年度1.5ポイント）以内。
- 平成29年度の中学校第3学年が、平成26年度に小学校第6学年で調査を実施した結果と比較すると、全国との差がすべての教科で縮まっている。

(2) 各領域等の平均正答率【小学校：P 6～7、中学校：P 12～13】

- 小学校は、国語B「話すこと・聞くこと」で全国を上回っている。
- 中学校は、数学A「図形」で全国を上回り、数学B「関数」で全国と同じ。

(3) 質問紙調査【小学校：P 8～11、中学校：P 14～17】

- 児童生徒質問紙調査では、小・中学校ともに、「国語の勉強が好き」な児童生徒や、「家で、学校の授業の復習をしている」児童生徒、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」児童生徒の割合は全国を上回っているが、「1日当たり1時間以上勉強する」児童生徒の割合は全国を下回っている。
- 学校質問紙調査では、小・中学校ともに、「家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図った」学校や、「保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行った」学校の割合は全国を上回っているが、小・中学校ともに、「家庭学習の課題（宿題）を与えた」学校の割合は全国を下回っている。

(4) 正答数の状況【P 18～19】

- 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童生徒の割合は、すべての教科で全国より高い（小学校：1.6～3.2ポイント、中学校：0.7～2.1ポイント）が、前回と比較して小学校国語A、国語B、算数A、算数B、中学校国語Bの5教科で改善している。

2 管内の状況

(1) 管内の平均正答率のばらつき【P 32～33】

- 全国以上の管内は、小学校では、国語Aで渡島、檜山、国語Bで檜山、上川。中学校では、国語Aで石狩、国語Bで石狩、留萌、数学Aで石狩、留萌、数学Bで石狩。

3 市町村の状況

(1) 市町村の平均正答率の度数分布【P 88】

- 全国を上回った市町村が各教科で37～72あり、前回（35～70）と比較して小学校のすべての教科、中学校国語Bで増加している。

(2) 市町村の規模別の平均正答率【P 89～91】

- 「大都市・中核市」は、小学校国語B、中学校のすべての教科で全国を上回っている。
- 「その他の市」は、小・中学校のすべての教科で全国を下回っているが、前回と比較して小学校のすべての教科と、中学校国語Bで差が縮まっている。
- 「町村」は、小・中学校のすべての教科で全国を下回っているが、前回と比較して小学校国語A、国語B、算数A、中学校国語Bで差が縮まっている。